



正直に生きる

日本では、古くから一月を睦月^{むつき}とも呼ぶ。その由来は、親類や知人が互いに往来し、仲睦まじくすることから“睦び月”となった説があります。たしかに一月は、プライベートや仕事でも、人が集まる機会が多いのかもしれませんが。

今月開催される“全国クライアント新発式”においても、出会いを楽しみに参加する方もおられると思います。実際に、「新発式での出会いが起点になった」との声も。誰もが良い出会いを望み、求めている。しかし、出会いばかりは、計算尽くでは生まれません。思うに、自分自身の『生き様』によって出会いは生じる。正論ではなく体験的な結論として、そのように思います。

アンリミテッドに出会う前の私は、生きることに無目的であり、いい加減な生き方でした。そんな私を見かねた父が、ある会社を紹介する。そこで面接をされた先輩が縁となり、アンリミと出会う。確かにいい加減な生き方でした。でも、心の中では何かを求め、もがきながら生きていました。

数々の記録と記憶を残した元プロ野球選手は、引退後に薬物事件を起こし、多くを失いました。過去に執着するあまりか、選手生活の晩年の『生き様』が、悪しき出会いを引き寄せたのかもしれませんが。しかし、これを機に、彼がどのように生きるかによっては、良き出会いがあると思います。

つまり、出会いは、一人ひとりの『生き様』が引き寄せるもの。だからこそ、良い出会いは、良い生き方によって引き寄せられるのではないかと考えます。

その良い生き方とは、正直に生きること。人を騙すようなことはしない、裏切らない生き方です。しかし、誰もが、逃げたい、誤魔化したい気持ちはある。また、いざという時には保身に走ってしまう。そこで、利他の心を持つことにより、自分を見つめ、反芻^{はんすう}するなかで、正直な気持ちになれます。利他の心の源泉は、正しい哲学を学び続けることだと思います。

善き友

現実には厳しい。最近ニュースとなった大手自動車企業や鉄鋼企業による不正事件は、“一人ひとりが持つ正直な気持ち”よりも売上げや納期、効率、生産性を優先した結果に思えます。はじめは正直な気持ちを持っていても、どうしてもエゴイズムやしがらみに飲み込まれてしまう。大事なことは、正直に生きることを求め続け、積み重ねることです。しかし、その過程においては、様々な葛藤や寂しさが伴うのかもしれない。

私がアンリミ哲学を学び始めた頃、生き方を改めようと思えば思うほど、当時の友達とは話が合わなくなり、「お前、変わったな」と言われ、友達が知らず知らずに遠ざかってしまう。そこで、弊社創立者へ「これは、なぜでしょうか？」と深刻に質問をしました。すると、「本当に大変な時に助けてくれるのが友達だと思うよ」と。また、「おまえの友達は何人いるんだ？」と聞かれる。私は「〇人です」と答えると、「“本当の”友達は何人いるんだ？」と聞かれました。

それがあまりにも急所で、言葉も出ない。しかし、なるほど、自身の生き方によって、人間空間の濃淡が生じるのかと。私が感じていた寂しさの意味は、これなのかと思い知らされました。

正直に生きることで、最も難しいのは“自分”です。相手との約束は果たそうとするが、自分に嘘をつくことがたくさんある。一日のなかでも、プライベートや家庭でもある。自分にする嘘をなくすことは難しいと思います。しかし、その都度「あっ、またか！」と自分を見つめる見方があるうちは良い。だからこそ、こうした見方を持ち続けるためにも善き友と交わり、自己自身を律する哲学を研鑽し続けてまいりたい。